

2月1日（日）主日礼拝レジュメ

「私たちは それぞれが器官」 ローマ人への手紙 12章4～8節

パウロはしばしば教会をからだに例える。（Iコリント 10:17、12:12～30、エペソ 1:23、4:4～16、5:23～30、コロサイ 1:18,24、2:19、3:15 参照）それは多様性における統一性で、からだの器官は多様だけれども、それが一つのからだを構成しているということ。またパウロは賜物についてもさまざまところで語っている。（Iコリント 12:4～11、28～30、14章、エペソ 4:7～11）

今日の箇所においてパウロが言おうとしていることは、それぞれの教会のメンバーが、それぞれ異なった賜物を持っていて、それぞれが教会の中において確かに果たすべき役割を持っているので、その賜物が仮にどんなものであったとしても、十分に用いていくべきだということ。

4節「一つのからだには多くの器官がある」=5節「大勢いる私たち」、4節「すべての器官が同じ働きをしてはいない」=5節「一人ひとり互いに器官」一つのからだには多くの器官があり、外側の器官、内側の器官のそれぞれが、果たすべき役割を果たす中で一つのからだとして機能するように、すべての人が、一つのからだである教会のためにその役割を果たすことで互いに機能し合い、互いに支え合っているということ。

5節でのパウロの「キリストにあって一つのからだであり」とは、キリストがかしらであること、そして、すべての者が、ひとりの例外もなくキリストにある者だということ。それは、いわばキリストにあって互いに強い結びつきを持っているということの意味する。そして、器官はからだから離れては存在しえないし、何ものにも自分は属さないということはありません。

6節「異なる賜物を持っているので」とは、4節に「すべての器官が同じ働きをしてはいないように」とあるように、多様性があり、それぞれが異なっているということ。もともと持っている賜物とともに聖霊によって与えられる賜物が一人ひとりにはある。それは「与えられた恵みにしたがって」とあるように、すべてが与えられた恵み。

預言とは、神から与えられる知恵や洞察をもってキリストの福音を正しく解き明かすことにより、神のみこころを明らかにすること。これはキリストのからだとしての教会を励まし、建て上げるためになされるもの。「その信仰に依じて預言し」とあるが、私たちの持つ正しい教理、み言葉に基づいた教えを意味している。そのような意味で預言は吟味されるべき。そして、互いに教え合う交わりがあることは幸いなこと。そのように教会の中で預言的な賜物を持っている者たちが互いに教え合ってキリストのからだを建て上げ、互いに励まし合い、キリストのからだの各器官として結び合っていきたい。

7節「奉仕であれば奉仕し」とは、あらゆる霊的な働きを指し、それを主が与えてくださった賜物を用いて一人ひとりが忠実に行うことが求められている。

「教える人であれば教え」賜物をもって教え、導くことで一人一人の信仰の成長がなされ、教会の建て上げがなされるべき。

「勧めをする人であれば勧め」とは励ましを意味する。

「分け与える人は惜しまずに分け与え」とは、神からの恵みの賜物としての資産、財を貧しい人たち、経済的援助を必要としている人たちのためにささげること。

「指導する人は熱心に指導し」とは、教会のさまざまな面で指導して、教会の働きを導くということであり、その働きに専心する人が求められている。それと同時に指導者は、その指導にふさわしい言動やクリスチャンとしての生活も求められている。

「慈善を行う人は喜んでそれを行いなさい」とは、キリストの愛やあわれみを目に見えるかたちで現す。

異なる賜物が、与えられた恵みに従って一人ひとり持っているので、それを教会の建て上げのために、キリストの栄光のために、互いの愛の交わりのために豊かに用いていきたい。